

懇話会のお知らせ
東京大学文学部スラヴ文学研究室/現代文芸論研究室主催

アレクセイ・ユルチャク教授を囲んで

発表 アレクセイ・ユルチャク（カリフォルニア大学バークレー校）
「レーニンの二つの身体：共産主義の永久性をめぐる隠された科学」

コメント 野中進、神岡理恵子、河村彩

(英語・ロシア語併用、通訳なし)



日時 2013年10月16日(水)
午後4時40分～6時20分

場所 東京大学(本郷キャンパス) 文学部3号館7階 スラヴ文学演習室
〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

交通 地下鉄丸ノ内線・大江戸線「本郷3丁目」、南北線「東大前」、千代田線「根津」など下車、いずれも徒歩10分。

構内地図 http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_05_03_j.html

アレクセイ・ユルチャク教授はロシアで大学卒業後に渡米し、デューク大学にて人類学の学位を取得。後期ソ連～現代ロシアに関して、美術、音楽、大衆文化から政治・商業における実践まで、幅広い対象を論じている。著書『失くなるまですべては永遠だった *Everything Was Forever, Until It Was No More*』(2005)で全米スラヴ研究促進学会ヴチニッチ賞を受賞。

問い合わせ先 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部
スラヴ語スラヴ文学研究室 電話 03(5841)3847

